【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【公開番号】特開2001-282398(P2001-282398A)
【公開日】平成13年10月12日(2001.10.12)
【出願番号】特願2000-96643(P2000-96643)
【国際特許分類第７版】
　Ｇ０６Ｆ　1/26
　Ｂ４１Ｊ　29/38
　Ｇ０６Ｆ　3/12
【ＦＩ】
　Ｇ０６Ｆ　1/00　３３４Ｆ
　Ｂ４１Ｊ　29/38　Ｄ
　Ｇ０６Ｆ　3/12　Ｋ
　Ｇ０６Ｆ　1/00　３３４Ｑ

【手続補正書】
【提出日】平成16年5月20日(2004.5.20)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
　尚、このＣＰＵ１２は、立ち上げ初期化時に電池などのバッテリでバックアップされている時計からカレンダ情報を取得し、以降はタイマ１１が１０ミリ秒ごとに出力するタイムアップ信号（クロックチック）でシステム時計としての時計部１６が保持する時刻を更新している。また、ＣＰＵ１２は、システム上で動作する複数のタスクを管理するため、プロセススケジューリングに使われるクロックウエイト関数の計数にもこのクロックチックを用いている。一方、ＣＰＵ１２が省電力動作している間、消費電力の抑制のために、このタイムアップ信号の間隔を例えば５倍の５０ミリ秒に引き伸ばすため、ＣＰＵ１２による時計部１６の更新処理が遅れ、プロセススケジューリングにも支障を来すことになりかねない。そこで、通常動作時の動作クロックに復帰してからＣＰＵ１２がこの時計部１６の計時時刻を補正することが好ましい。この補正は、具体的には、動作クロックの省電力制御前のタイマ１１の計数値を保持しておき、通常動作復帰時のタイマ１１の計数値との差と、通常動作時の動作クロック周波数と省電力制御時の動作クロック周波数との比とを考慮して行うことができる。また、各プロセスのタスクの処理優先度を表すウエイト値を省電力制御を行う前と、通常動作に復帰する際に適宜変更することが好ましい。